

進級おめでとう♪

いよいよ受験生ですね。「よしー今年こそ国語のテストでいい点とるぞー」と気合が入っていたことと思います。しかし、残念ながら授業はもう少し先になりそうです。でも、だからと言って高校入試がなくなるわけではありません。だから、この休校期間を使って、これまで学習した漢字を復習したり【学習漢字ノート（一年） 漢字ノート（二年）】受験に向けて小学校からの漢字を復習したり【漢字リッスン】これまでの文法を復習したり【すらすら基本文法】、ことわざ・慣用句・四字熟語を復習（国語便覧）しておきましょう。さらに、君たちが苦手としている（思い込んでいる）読解力をつけるために三年生の教科書のすべての教材をよく読んで、以下のことを自主勉ノートにやっておきましょう。

【物語】「春に」「立ってくる春」「私」

- ① 教科書を読む（音読・一つ一つの言葉に注意しながらゆっくりに読む）
- ② 語句の意味調べをする
- ③ 新出漢字を書けるようにしておく
- ④ 登場人物と場面を確認する
- ⑤ 登場人物（詩の場合は筆者）の心情をとらえる
・ 会話文・表情・態度・行動・心情を表す言葉
・ 場面の雰囲気を表す言葉 など
- ⑥ 登場人物の気持ちが変わった理由を考える
- ⑦ あらすじを簡潔にまとめ、感想を書く



【説明文】

- 「新しい博物学の時代」「歴史は失われた過去か」「文化としての科学技術」
- ① 教科書を読む（音読・一つ一つの言葉に注意しながらゆっくりに読む）
 - ② 語句の意味調べをする
 - ③ 新出漢字を書けるようにしておく
 - ④ 問題提起の文（序論）、結論（結論）の部分をとらえる
 - ⑤ 筆者の主張を支える根拠（本論）をとらえる
・ 具体例 ・ 調べたこと など
 - ⑥ 自分なりに図にしてみる
 - ⑦ 筆者の考えに対する自分の考えをまとめる

★★☆☆「古文」を追加しました

【古文】おくのほそ道 「旅立ち」「平泉」「立石寺」

- ① 音読をする
- ② 古文を全文書き取りする
- ③ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す
- ④ 現代語訳する 「旅立ち」は教科書 「平泉」「立石寺」は次ページを参照
- ⑤ 便覧 P92～P99 を読むでおまへ
- ⑥ 「旅立ち」を暗唱する

《ノートの作り方》

おくのほそ道

芭蕉

「旅立ち」

(かかへ)

(うきかじ)

月日は百代の過客^{へひかた}にして、行きかば年もまた旅人なり。

月日は永遠の旅人であり、行く年くる年もまた旅人である。

(うらなひ)

(まかしの)

舟の上^{ふね}に生涯を浮かべ、馬の口^{うまぐち}にうけてきこを迎ふる者は

船の上で一生を送る船頭や、馬のくちわを取ってきこを迎える馬子は

日々旅にして旅を栖とす。

毎日の生活が旅であり、旅を住みかたとしている。

古人も…

現代語訳

《平泉》

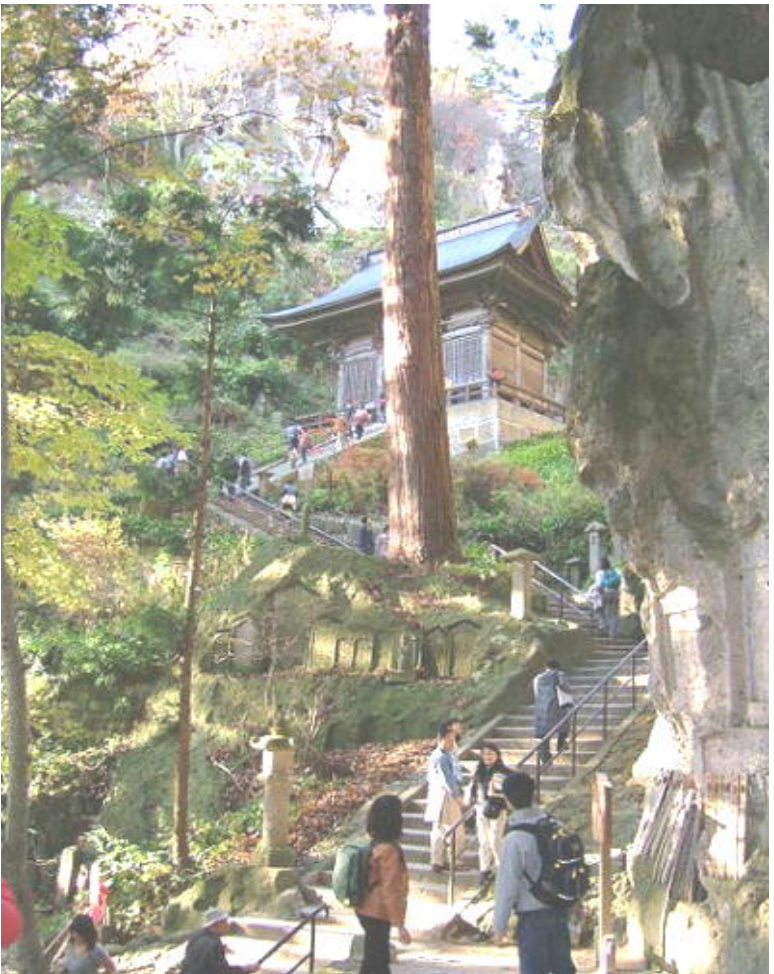
三代にわたって栄えた藤原氏の栄華も一睡の夢のように消え、大門のあとは一里ほどこちら（手前）にある。秀衡が住んでいた場所は田んぼになっていて、金鶏山ばかりが昔の形をのこしている。

まずは高館に登ると、（眼下には）南部から流れてくる北上川という大河が見える。衣川（という川）は、和泉の城をまわって流れ、高館のところで大河（北上川）に合流をしている。（秀衡の息子の）泰衡が住んでいた所は、衣が関を隔てたところであり、南部から平泉に入ってくる道を固めており、蝦夷の侵入を防いでいたと見える。それにしても、義経は選りすぐった家臣たちとこの高館の城に立てこもり、この場所は一時の高名をたてたけれど、今は草むらとなつている。『都が戦に敗れても山河は残っており、都に春の季節がやってきて草や木が生い茂っている』と杜甫が詠んだ句を胸に、笠をおいて、しばらくの間、涙を流したのであった。

《立石寺》

山形領内に、立石寺という山寺がある。慈覚大師が開いたお寺で、まことに清らかで静かな土地である。「一度は見てみたほうが良い」と人々にすすめられたので、尾花沢から引き返してきたのであるが、その距離は七里ほどである。

日はまだ暮れていない。山のふもとの宿坊に宿を借りて、山上にあるお堂に登っていく。岩に巖が重なって山となり、松や柏の木は年齢を重ね、土や石も年が経って苔がなめらかに覆っており、岩の上に建てられたお堂の扉は閉じられていて、物の音が聞こえない。崖のふちをまわって、岩をはうようにして登り、仏閣を拝んだのだが、すばらしい景色は静寂につつまれ、自分の心が澄んでいったことだけが感じられる。



立石寺です